

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見や感じたことを表現する力が課題点である。 ○文章を精読する力が課題点である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○辞書を使いながら言葉の意味を理解し、文章を読むように指導をする。 ○話す・書く指導の中で、優れた表現に多く触れることができるような授業作りをする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの生徒が授業中の課題や提出物などに真面目に取り組んでいる。しかし、学習内容が知識として定着しておらず、それぞれの事象を結びつけて考えることができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な資料を用いて、興味・関心をもたせる。 ○ノートやワークのチェックをこまめに行い、生徒の理解度を把握する。 ○正誤問題やレポートに取り組ませ、思考力・判断力・表現力を養う。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○どの学年も、授業に対しては真面目に取り組んでいるが、特に技能的な面がなかなか定着しない傾向がある。 ○論理的に考察したり、統合的・発展的に考察したりする力が不十分なところがあるので、生徒が自ら考えて取り組む学習活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を推奨し、反復学習をさせることによって基礎学力の定着を図る。 ○ICT機器を活用して、生徒たちが興味をもつよう工夫する。 ○生徒が興味をもてるような、日常生活に関係のある身近な題材を授業などに取り入れる。 ○自らの考え方を説明できるような場면을授業中に設定する。 ○すぐに正答を提示するのではなく、ヒントを与え生徒自らの力で答えを導かせ、わかる喜びを経験させる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査の結果から、科学的に探究する力を育成する必要がある。 ○本校の実態として「思考力・判断力・表現力」の分野が苦手であることが挙げられる。生徒が主体的に取り組み、自分の言葉で表現するような活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が興味をもつよう、身近な出来事や事象を教材として導入の工夫をする。また、観察・実験の結果を科学的な根拠を基に考察する活動を通して、思考力を身に付けさせる。この時他の生徒との対話を通して、表現力を身に付けさせる。さらに、観察の結果を画面で表示したり、実験の結果のノートの評価を通して、思考力・判断力・表現力を向上させる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度、歌唱の授業を十分に実施できていないこともあり、歌うことを通して、思いや意図をどのように表現していくかを指導する時間が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パート練習の中で技能を高める指導を行い、基礎的な歌唱力を身に付けさせる。 ○曲に対する思いや、どのように歌うかなど、グループでの話し合いの中で考えを深めさせ、それについて学級全体で共有しながら歌唱表現を深めることができるようにさせる。 	

	課題分析	授業改善策	改善状況
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の指示を聞き、積極的に活動しようとする姿勢が多く見られる。 ○一部の生徒に、集中力が欠ける場面がある。 ○生徒が授業の主題を理解することで、主体的に表現活動や鑑賞活動をしようとする姿勢を引き出していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心をもたせる教材を選定する。 ○ICT機器の活用など授業の導入の工夫をし、生徒の主題への理解を深めさせる。 ○作品制作の背景、表現活動の目的を認識させる授業を展開して「ねらいをもって表現する楽しさ」を実感させていく。 ○描画道具の使用方法を定着させる。 ○表現活動をする前提となる知識や技能を身に付けさせ、作品に結実させていくことの楽しさ、充実感を実感させる。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を守り、積極的に活動する生徒が多い。授業アンケートの結果からも保健体育の授業が好きと答える生徒が多い傾向にあるが、運動が苦手な生徒は嫌いと回答している。その中でも球技や集団での活動が苦手と回答している生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で基本的な技能を習得させ、「できた」ということを多く経験させることが、運動が苦手な生徒にとっては必要なので、コーディネーショントレーニングや体づくり運動の時間を充実させる。 ○ペア学習やチーム練習の際には、メンバーを固定するのではなく多くの生徒と関わりをもって活動できるように工夫する。 	
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組んでいるが、知識の定着においては差がある。 ○実習で学習したことを自分の言葉で表現する力が弱い。 ○授業で行った学習内容が日常生活の中でどれだけ改善されたのか把握しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の活用などを通じて、学習の振り返りを自主的に行えるような支援するとともに、実習のまとめを書かせたり発表させたりすることで表現力を身に付けさせる。 ○継続して理論の裏付けができるよう、実習の時間をバランスよく配分していく。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○適語補充・英作文などのライティング系統の問題の正答率が低く、文の構造・慣用句の正しい筆記に習熟していない。 ○「思考・判断・表現」の力を試す問題に慣れておらず、解答の要領を得ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英文の構造を理解しながら書く、イディオムを習得しながら書くなどの、ライティングの活動の時間を多く設定する。 ○ワークの問題だけでなく、「思考・判断・表現」の力を育てる教材を作成し、それらに取り組ませる時間を確保する。 	